

森林組合だより

森の声

平成27年
(2015年)

1 月 1 日
No.112

編集、発行：☎012-0055 秋田県湯沢市山田字福島開372番地5 雄勝広域森林組合
TEL 0183-72-1197 FAX 0183-72-1199 E-mail: sinrin@ogachimori.com



謹賀新年



林地内で発生した木材をチップにして
路盤材として利用しています。(湯沢市山谷)



新年のご挨拶



雄勝広域森林組合代表理事組合長

佐藤 重芳

あけましておめでとうございます。組合員の皆様にはお健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、政府においては『大胆な金融政策』、『機動的な財政政策』、そして『民間投資を喚起する成長戦略』の、いわゆる『三本の矢』を基調とする経済政策に取り組んでいるところでありますが、第三の矢である『日本再興戦略』が6月24日に改訂されるとともに農林水産省においても『農林水産業・地域の活力創造プラン』が改訂された中で林業の成長産業化が謳われ、私たちにとって大きな朗報となりました。山村活性化の切り札としての『林業復活』に国の積極的な取り組みが期待できるものと思っております。私たちはこの機を逃さず、更に『森林経営計画』を拡大して、施業の集約化による森林整

備に取り組みつつ材を安定供給していかねばならないものと思えます。

そのような中、昨年10月に東京で開催された『全国木材産業振興大会』において、全国木材産業連合会と全国森林組合連合会の間で行動宣言をして調印を行いました。その背景は、林業・木材産業が成長産業として変革していくとする今こそ真の意味で川上と川下の連携が必要との共通認識のもと、これまでの戦後の街づくり等における木材から非木材への流れを変えて、木材を優先的に活用していく社会を目指す『ウッドファースト社会』の実現に向け、これまでの枠組みを超えて連携していくというものであります。林材界の新しい歴史の扉が開かれました。

また昨年4月から消費税が3%上がり8%になりました。増税前の駆け込み需要で住宅着工数が伸び、一昨年秋口からかつて無かったほど丸太価格が上がりましたが今年1月をピークにまた右肩下がりで推移しております。新たな需要の掘り起こし等への取り組みが急がれます。いずれにしましても『需要』の拡大が価格に反映するという検証が出来たことは今後に生かされるものと思っております。

昨年もまた大変に『自然災害』の多い年でありました。豪雪による立

木被害、広島における集中豪雨と土砂崩れ被害、長野の震災被害などにより犠牲者が多く出たことに大変心が痛みます。雪・雨・風の被害が局地化・大規模化していることについて、専門家の中からは温暖化によるものとの指摘もあり、また間伐等森林整備の遅れによる林地の脆弱化も指摘されているところであります。今後ますます森林組合の仕事が大事になってきます。

私たち森林組合の使命は、組合員の所有林はもちろんのこと、地域の森林を協同の力をもつて守り育て、地球温暖化防止等に寄与することにも「国土の保全」、「材の安定供給」を進め、社会貢献していくことに他なりません。今後においても施業の集約化、林内路網の整備、プランナーやオペレーター等の人材育成に力を入れ、使命を果たしてまいります。組合員皆さまのご理解ご協力をお願いいたします。

更に今年は平成23年度にスタートした系統運動21世紀ビジョン3rdステージ「国産材の利用拡大と森林林業再生運動」の最終年となります。当組合におきましても、しっかりとその進捗を検証し、次期運動につなげてまいりる所存であります。

所有者の山離れをくい止め、間伐、更には主伐再造林による山の循環を取り戻すためには、所有林から所得

を確保できる立木価格の実現と、「所有者」を最優先に考えた林業政策が不可欠であります。全森連会長として「所有者」の先頭に立つてがんばってまいります。

森林組合を取り巻く環境は相変わらず厳しい状況ですが、「公共建築物等木材利用促進法」の施行、「再生可能エネルギー固定価格買い取り制度」による木質バイオ発電、CLT（直交集成板）等新しい製品や技術の開発、土木工事木材活用、また2020年オリンピック・パラリンピック施設の木造化等需要が拡大されてきております。この「追い風」をしつかりと受け止めて成果を上げて参らなければならぬと思っております。雄勝広域森林組合として、組合員の負託に応えるべく役職員一丸となつて努力しているところでありますが、25年度決算においても当期剰余金を計上することが出来たことは偏に組合員各位のご協力の賜と感謝しております。

今後も地域の「山」を中心的に担っていく「森林組合」として、国・県・管内市町村等関係機関との連携を密にしなが、がんばってまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

年頭にあたり組合員の皆様のますますのご健勝、ご多幸をお祈りし新年のご挨拶といたします。

湯沢市に木質バイオマス施設が完成間近

秋田基準寝具(株)湯沢工場

岩崎工業団地に木質バイオマス利用のボイラーが建設進行中です。本年3月からの稼働予定で準備が進められています。そのボイラーは秋田基準寝具株式会社湯沢工場で、県の事業を活用して造られるものです。

秋田基準寝具株式会社は秋田市八橋の本社の下に6営業所、4工場を持つ、東北随一のリネンサプライヤーです。リネンと言えば私達も一度くらいはお世話になつているかもしれませんが、例えば病院の寝具のクリーニング、殺菌消毒され、綺麗にしわが伸ばされ気持ちよく使えます。

木質バイオマスボイラーは、山の残された未利用の間伐材や、製材品の端材等木質ならなんでも燃料にできるとのこと、地域の材を有効活用し、化石燃料から木質に変えることで、コストの削減、そして炭素排出抑制も期待できます。本年のボイラー稼働は、湯沢雄勝地域の林業の活性化、そして地域の活性化に繋がるのではと期待しています。



建設中の秋田基準寝具(株)湯沢工場のボイラー施設

木質バイオマスとは？

「バイオマス」とは、生物資源(bio)の量(mass)を表す言葉であり、「再生可能な、生物由来の有機性資源(化石燃料は除く)」のことを呼びます。そのなかで、木材からなるバイオマスのことを「木質バイオマス」と呼びます。

木質バイオマスには、主に、樹木の伐採や造材のときに発生した枝、葉などの林地残材、製材工場などから発生する樹皮やのこ屑などのほか、住宅の解体材や街路樹の剪定枝などの種類があります。

一口に木質バイオマスといっても、発生する場所(森林、市街地など)や状態(水分の量や異物の有無など)が異なるので、それぞれの特徴にあった利用を進めることが重要です。

(林野庁HPより)

あけまして
おめでとらございます
本年もよろしく
お願いいたします



雄勝広域森林組合

代表理事組合長 佐藤 重芳
代表理事副組合長 高橋 忠廣
理事 柴田 貞一郎
高橋 健
土田 政泰
佐野 修蔵
佐々木伊左工門
金子 清一郎
宮原 隆
藤原 洋一
菅 忠一郎
長谷山 利宏
富田 富男
兼子 力
高橋 喜一郎
渡邊 慶一郎
富谷 公治
高橋 忠雄
樋渡 昭彦
外職員一同

代表 監事
" " " " " " " " " " " "
参事

木材市況

秋田木材流通センター入札結果

◆開催日
平成26年12月5日
m³あたり

3.65m (12尺)	高 値	安 値	平 均
13cm 下	9,519円	6,000円	9,179円
14～22	13,209円	12,879円	13,035円
24～28	16,600円	12,000円	16,070円

●概況 高齢級の良材がほとんど入荷しなかったため、参加者が少なく、一般材のみ活発な取引となった。量産工場の手持ちが相変わらず少なく、確保にむけた動きはあったが、全般的には横バイで、これ以上の単価の上昇はなく、新年の年明け以降、弱含みに転じそう。

平成26年12月 当森林組合販売平均単価

杉丸太	2m		3.65m		4m	
	円/m ³	円/石	円/m ³	円/石	円/m ³	円/石
13cm下	5,400	1,500	5,400	1,500	5,400	1,500
14～22	7,593	2,109	10,620	2,950	9,506	2,641
24～28	8,640	2,400	11,340	3,150	10,099	2,805



平成26年度

表彰者のご紹介

本年度永年の功績により表彰を受けた方々を紹介します。(敬称省略)

秋田県林業経営コンクール及び間伐功労者

【林業経営の部】

優秀賞(秋田県知事賞)

北日本索道株式会社

代表取締役 兼 子 富 市(湯沢市皆瀬)

【間伐推進功労の部】

秋田県知事感謝状

阿 部 孝 雄(湯沢市皆瀬)

林業安全の日大会

【安全貢献者表彰】

小 南 重 雄(湯沢市皆瀬)

日 野 悦 男(湯沢市駒形町)

秋田県森林組合大会

【林業功労者】

藤 原 洋 一(羽後町下仙道)

【役員永年功労者(35年)】

代表監事

渡 邊 慶一郎(横手市雄物川町大沢)

【職員永年勤続者】

市 川 栄 彦(20年・販売課係長)

高 橋 勝 也(30年・経営計画課長)

【優良作業員】

鈴 木 貞 志(羽後町軽井沢)

小野寺 輝 夫(横手市増田町狙半内)

全国森林組合代表者大会

【功労者表彰】

森林組合役員

代表理事副組合長

高 橋 忠 廣

(湯沢市泉沢)

森林組合職員

市 川 栄 彦

(販売課係長)



佐藤県森連会長(組合長)より
表彰を受けた渡邊代表監事

編集後記

新年、あけましておめでとうございます。

暮れには、早い寒波の猛威の中衆議院議員の総選挙が行われ安倍政権が“信任”という結果となりました。投票率は低いため民意を反映していないとの意見もありますが、投票しないことが肯定されるような報道はいかなるものかと思えます。

さて、本年4月より、「秋田林業大学校」がスタートします。講師陣は、県や国など行政機関と各分野の専門家で構成するサポートチーム「オール秋田」です。当組合もその一員として加わっており、「地域を元気にする若き林業技術者」を養成することになりました。そして、その一期生に当管内から四名が合格しました。高卒予定者から社会人まで様々ですが、林業技術者として育つことを期待しています。

一昨年から径級によりますが丸太価格が高値に推移しております。このような状況は続きそうな気配です。し、木質を熱源とした施設の建設が計画されています。

今年は、「ひつじ年」、穏やかに森林・林業界が明るくなることを祈っています。

(A・T)